



平成十八年四月二十日
〒九三二〇八〇四
高岡市問屋町四十
有 限 公 社 沖 商 店 発
行 局
TEL 〇七六六一二五二五五
FAX 〇七六六一二五五〇〇
E-mail info@kr-shouten.com

いつもお世話になりありがとうございます。

『人は何の為にこの世の中へ生まれて来たのだろうか』『人生の本来の目的は何なのだろうか』ということをご皆様に一緒に考え、意見を交換して勉強を深めて行きたい。そんな思いで本通信をお届けしている次第です。どうか忌憚の無い意見を寄せてくださいませ。

一 初心

私どもの住んでいる富山県では、ちょうど今頃が桜の満開です。今年は何十年ぶりと言われた豪雪のため雪解けが遅れたのと、寒気の南下が遅くまで続いて、いつまでも寒かったのと、例年よりかなり開花が遅いようです。ゴルフ場のオープンも軒並み遅れました。そんな季節のずれには関係なく、新年度・新学期が始まります。

私ども沖商店では学生服も取扱っておりますので、昨暮から三月半ばまでの小中学生用学生服受注・販売に引続き、三月二十日過ぎの合格発表日から四月八日の入学式日までの短期決戦の高校制服受注・販売と、この時期は年間が一番忙しい時期に当たります。

毎年のことですが高校制服販売が終りますと、まさに「戦いすんで日が暮れて」の感があり、社内・倉庫の乱雑ぶりは大変なものです。在庫を整理し、関係書類を整理し、この頃ようやく一息ついたところですが、それで出入りの学校へ挨拶回りに行きました。それこそ「びっぴつかの一年生」。小学生も中学生も一年生は希望に燃え、輝いた目、緊張したいい顔をしています。高校生も念願の学校へ進学できた喜びと達成感で張り切っているふうに見受けられます。彼らには、この日の感激の思いを持ち続けて欲しいと思います。

この中からどうして「いじめ」が生まれるのでしょうか。こんなに希望に輝く雰囲気の中から「登校拒否」や「引きこもり」は想像できません。「初心忘るべからず」。いつまでも今日の気持ちを

忘れないで頑張っているって貰いたいと思います。

そしてこれは、新入生に対してだけでなく、新入社員にも中途採用の社員にも、新婚のふたりにも再婚のふたりにも、新たな道に踏み出した者すべてにお願いしたいことです。夢と希望を持って踏み出したスタート時点の心・初心を忘れないでください。

『結婚』星の数ほどある異性の中であなたただけだと選んで結ばれた。毎日毎日バラ色人生。あなたとふたりならどんな苦労も乗り越えられる。そんな気持ちを持ち続けたなら離婚は絶対ありません。それなのに日本だけでなく世界中に何と離婚の多いことか。

『中途採用』長く苦しい就職活動の末、やっと掴んだ就職先。条件の悪さも時代の性と自分に言い聞かせて勤め始めた会社。最初は私のようなものをよくも雇ってくださったと大感謝。安い給料にも拘らず一生懸命勤める。その甲斐あって給料が上がる。この時の喜びは最高、やっと私の才能が認められたと。

しかし、雇い主は才能を認めたのではなく、懸命に努める貴方の一途さを評価したのでした。暫くするうちに雇い主との間に本々違う価値観の違いが見えてくる。段々不満が募ってくる。ここで初心に戻り素直な心で雇い主と話し合えば良いのだが、考え方の違いが障壁となり価値観の差が広がって行く。それが不満を増長させ遂には辞職。初心に鑑みれば有るべからざることですが、こんなパターンで小企業・零細企業を去って行った社員の何と多いことか。

『諸行無常』(諸々の事柄はそのままの状態を保持できない)全て事柄は刻々と変化して行くものである。これは形あるものだけのことでではなく人の心も移ろい行くものであるということ。人は、心の持ち様で如何にでもなる。だから苦境に立った時は、新たな道に踏み出した時の夢と希望を忘れないで頑張ろう。これが『初心に帰る』です。

二 日本人大リーガー・世界の日本野球

四月九日、日本中の新聞のスポーツ欄を飾ったのは、阪神の金本知憲選手の「303 試合連続全インング出場達成」のニュースでしょう。私はプロ野球にあまり興味がないので、阪神ファンの方に叱られそうですが、金本知憲選手の名は今まで知りませんでした。それだけに、突然、日本のプロ野球選手が「世界の鉄人」と言われる、米大リーグ、元オリオールズのカル・リプケン氏が持つ偉大な記録に肩を並べ、さらにその記録を破らんとしているというニュースに触れ、大変驚かされたとともに、嬉しく誇らしく

思いました。

足かけ八年、一試合どころか一イニングも休まず出場したと言うことは、シーズンオフ中は別としても、その間、病気や怪我もせず(実際には故障は何度もあったことですが) 打撃・守備などの野球技術も落さず、スタメンに選ばれ続けなければならぬわけで、「快哉」の一言に尽きます。

「けがと言わなきゃ、けがじゃない」が口癖で「親指が全然動かなくてもボールは捕れるし、薬指が全然駄目で指二本でバットを握っても、ホームランは打てる」と言っていたとのことですから、考え方の持ち様が一般の選手とは違っていると思います。その並外れた考え方に基づいた努力、それを取巻く環境・周囲の協力が相まって、この素晴らしい偉業が成し遂げられたのだと思います。

しかし毎度のことですが、わたくしの言いをさせて貰うなら、この世の中でなされた偉大な業は全て、その偉業をなすべく選ばれた者の努力、そしてそれを助ける周囲の協力もさることながら、さらにそのうえ、それ等を助ける目に見えない力が働かないと実現しないものではないのです。

このたびの金本知憲選手の偉業も、目に見えない力のお陰だろうと考える次第です。ところで、ここ近年、世界の野球界での日本人選手の活躍が目立ちます。シアトル・マリナーズのイチロー、ニューヨーク・ヤンキースの松井をはじめ今年にはマリナーズへ城島が加わり大活躍しています。「日本人は大リーグでは通用しない」という数年前までの日本人コンプレックスは払拭されました。

そしてWBC・世界野球選手権大会での日本チームの優勝は、日本野球界のレベルの高さを世界に証明してくれました。冬季オリンピック大会では、メダル獲得の話題で持ち切りだった割には、荒川静香の金メダル一個だけという結果に終わりましたが、これは戦う前からメダル獲得を口に出し(欧米諸国ではそうすることに)より自らを鼓舞しているが、日本人には、表には出さず内に秘めた闘志を燃やして戦うタイプが合っている、お祭り気分が多すぎたことに対する、目に見えない力の戒めだったのではなからうかと私は思う次第です。

今年ドイツにおいてサッカー・ワールドカップの開催も予定されていますが、日本チームの活躍を期待するとともに、各種スポーツ、否、各種の部門

において日本人が活躍し、大いに世界の役に立つて欲しいと願うものであります。

三 終末期医療

私の住所は富山県高岡市です。高岡市の東隣は旧射水郡・四ヶ町(大門町・小杉町・大島町・下村)と旧新湊市が合併した「射水市」があります。(ちなみにさらにその東隣が富山市になります)

その射水市民病院で末期患者七人の人工呼吸器が取り外され、延命治療が中止されたニュースは皆様ご存知のことと思います。この報道により末期患者への医療の在り方が大きく取り沙汰されています。生あるものは必ず死ぬことは誰もが知っています。問題はその死に際です。いまや死せんとする時に本人の意思とは関係なく、肉体だけが生きさせられていることは許されることではないと思います。

「薄れた意識の中で呼吸器のチューブを抜こうとするお年寄りの手を束縛したり、見かねた家族から『もう楽にしてあげて』と頼まれるのはつらい」。苦痛や心痛を察する良心的な医師ほど、患者を機械につないで放置することに疑問を抱き、悩んでいるのです。延命中止が殺人罪に問われかねない状況では人工呼吸器を一旦患者に装着した場合、治療効果がないと判明し回復の見込みがなくなっても訴追を恐れて外せないのが実情という。

先ず、人工呼吸器を挿管するか、しないかの決断から論じられるべきですが、まだ始めてもいない人工呼吸や点滴、透析などの治療効果を予測するのは医者でも困難という。それを患者や家族に「やるか、やらないか事前に決めてくれ」というのは無理があるといえます。

患者が既に意識不明になっている場合、代理決定者となる家族は「大切な人の命をあきらめるか、命と引き換えに患者を苦しめ続けるか」というつらい選択を迫られることになるのです。

患者本人の意識がしっかりしているうちに、家族、医師、弁護士などを交え方針を決定しておくべきでしょう。私は家族に「自分がそんな状態になったら、迷うことなく阿弥陀様の下へ送ってくださるよう」と言い聞かせていますし、書類にも残していこうと思っています。なによりも、この『にっぽん通信』の読者の皆様が証人です。

有限会社 沖商店

代表取締役 沖昌弘

個人メール E-mail 0625252@kr-shouten.com

にっぽん通信への意見をはじめ個人的な連絡は、個人メールへお願いします。